# ただみ・モノとくらしのミュージアム 第4回テーマ展 開催中!

ただみ・モノとくらしのミュージアムでは、第４回テーマ展「童話作家 山内秋生・戦争遺品からみる大正・昭和のただみ」を開催しています。当館では、２０２５年に、「戦後８０年 遺された〈モノ〉が語る戦争と只見」と、「児童文学者 山内秋生の業績と作品―没後６０年（生誕１３５年）只見町二軒在家出身の作家―」のふたつの特集展示を開催しました。今回のテーマ展は、それらの特集展示の拡大版として開催するものです。

## 童話作家 山内秋生

大正期（１９１２～１９２６）の文化は大正ロマンと呼ばれ、新しい時代の理想を求める表現が生み出されました。山内秋生（明治２３・１８９０～昭和４０・１９６５）は、只見町二軒在家の九々生に生まれた児童文学作家です。少年雑誌を愛読し、１５歳で上京して、日本児童文学の先駆者である巌谷小波に師事しました。夢や憧れを故郷只見で育んだ山内秋生は、童話を発表していきました。大正・昭和期に創作した童話は約１５０話、童話・実用書等の著書は１４冊あります。児童文学を日本文学史に位置付けた研究業績があります。昭和４０年（１９６５）１１月８日、只見町大倉の比良林公園に山内秋生の短詩「故郷よ　山川よ　つばめ　来るころよ」の文学碑が建ちました。その祝賀会の後の夜中、秋生は故郷で亡くなりました。２０２５年は没後６０年、生誕１３５年でした。それを回顧して、秋生の作品を掲載した雑誌、童話集・実用書の著書を展示しています。

▲童話作家 山内秋生 展示風景
上は山内秋生年表、下は著書。

▲「秋生作品を読もう」コーナー
秋生の作品や、同時代の童話作家の作品を読むことができます。

## 戦争遺品

昭和戦前期（１９２６～１９４５）の１９２７年に、〈青い目の人形〉がアメリカから来日して、両国民の対立を和らげようとしました。只見小学校ではその人形を保管してきました。しかし、日本は中国との全面戦争、米・英等連合軍との〈アジア太平洋戦争〉を起こし、１５年間の戦争に敗戦しました。昭和２０年（１９４５）に戦争が終結し、２０２５年は戦後８０年でした。只見町が収集してきた民具や文書には、戦争に関する〈実物＝モノ〉が含まれています。遺された戦争に関する〈実物〉を展示しています。過去から伝わる〈実物〉は、現在の私たちに語りかけています。〈実物〉が語る〈声〉を聞き、戦争について考えていきます。〈実物〉を読みとり、〈語り〉＝情報・事実を聞き、受けとり、未来に伝えていきます。本や映像で見た戦争を、博物館では〈実物〉によって伝えていきます。本展では、１軍装　２出征　3戦死　４戦時生活　５空襲　のまとまりで展示しています。

▲戦争遺品 展示風景
左は軍装再現、右は戦時中の世界地図。

▲青い目の人形
製造：ホースマン社（アメリカ）　銘：ELH©

## ただみ・モノとくらしのミュージアム 展示情報 入館無料

**第４回テーマ展「童話作家 山内秋生・戦争遺品からみる大正・昭和のただみ」**

会期：２０２６年3月２４日(火)～２０２６年6月２１日(日)
場所：ただみ・モノとくらしのミュージアム　展示ホール

ただみ・モノとくらしのミュージアム